

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
令和5年度 第2回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和6年2月21日（水）14：00～15:30

■ 場 所：荒川上流河川事務所 会議室・Web会議（Zoom）形式併用

■ 議事要旨

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の進捗について

- ・これまでの活動経緯や会議での意見を確認し、令和5年度 協議会活動結果の報告を行った。

2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

- ・今後の取り組みの進め方等について意見交換を行った。

3. その他（連絡事項等）

- ・第6回推進協議会開催について確認を行った。

■ 配付資料

- ・ 議事次第／出席者名簿・配席図／WG規約・委員名簿
- ・ 資料1 これまでの経緯
- ・ 資料2 荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進について
- 令和5年度活動結果・令和6年度活動計画案 -
- ・ 別紙1 スタンプラリー企画（案）
- ・ 別添資料集

■出席者

構成	氏名	団体名等	出欠	Web/会議室
学識経験者	浅枝 隆 ◎	埼玉大学 名誉教授	出	WEB
	高木 嘉彦	公益財団法人 埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	出	WEB
	日橋 一昭	那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー	欠	
	長谷川 雅美	東邦大学 名誉教授	欠	
市民団体	伊藤 鑄義	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事	欠	
	川島 秀男	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事	出	会議室
関係自治体	小林 弘樹	鴻巣市 環境経済部 環境課 副参事	出	WEB
	金子 舞	桶川市 環境経済部 環境対策推進課 主事補	出	WEB
	渡部 健則	北本市 市民経済部 環境課 主査	出	WEB
	笠井 貴志	川島町 農政産業課 課長	欠	
	笛木 学	吉見町 環境課 係長	出	WEB
関係行政機関	荒井 理恵	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹	出	WEB
	川鍋 将司	埼玉県 農林部 農村整備課 主任	出	WEB
	高嶋 美緒	埼玉県 県土整備部 河川環境課 主事	出	WEB
	三輪 誠	埼玉県 環境部 環境科学国際センター 研究推進室 副室長	出	WEB
	高橋 靖	荒川上流河川事務所 副所長	出	WEB
事務局	笠井 英志	荒川上流河川事務所 河川環境課長	出	WEB
	田代 拓	荒川上流河川事務所 河川環境課 専門官	出	WEB
※	斎藤 充則	関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長	出	WEB
※	池上 清子	関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長補佐	出	WEB
※	高玉 郁子	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長	出	WEB
※	渡邊 菜月	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係 技官	出	WEB

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

(1) これまでの経緯等の確認

○ 事務局

【資料1】これまでの経緯について説明

→意見なし。

(2) 令和5年度 協議会活動結果の報告

○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進についてのうち、令和5年度の活動結果(生物の生息場環境保全に関するプラン)について報告。

○ 浅枝座長

流域生物データベースについて、データ数が少ないと感じるが、河川水辺の国勢調査のデータも含まれているのか。

○ 事務局

含まれているが、ご指摘の通り、河川区域外のデータは蓄積が少ないため、自治体の皆様にもご協力いただきながら充実させていきたいと考えている。

○ 浅枝座長

インターネット上で公開されている国や県のデータもあるが、20~30年、場合によっては100年前の研究結果が古書に記録されている可能性があり、こういった情報は大変貴重なものとなる。日本のみならず、海外においても同様の課題となるが、こういった過去のデータをどのように収集整理するかについて頭を痛めている状況である。埼玉県環境科学国際センターはこういった情報をお持ちであるか伺いたい。

○ 埼玉県環境科学国際センター

近年のものであればあるかと思うが、本当に歴史的な資料は所持していない。

○ 浅枝座長

例えば図書館で眠っているような書籍や大学の卒業論文、場合によっては意外な資料の中に意外な種の記録があるのではないかと考えていたところである。もしそういった情報を得た場合は、事務局へ情報提供いただきたい。

また、観察会などを行うのは重要な活動であるが、どのような成果を得たかが、後々問われることになる。もちろんアンケート調査で、生きものに興味を持った子どもが増えたことを示すことも成果の一つとなるが、それと同時に貴重な結果が出た、というものがあると、エコネットの価値が出てくるため、そういった観点でも取り組みを

推進していただきたい。

○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進についてのうち、令和5年度の活動結果（地域振興・経済活性化に関するプラン）について報告。

○ 浅枝座長

海外からの集客を狙うのであれば、海外からの旅行者に向けた取り組みを行わないと意味がない。最近、川越にインバウンドが急増しており、その原因について事前に事務局へ調査を依頼したところである。

日本はインバウンドを呼び込むシステムが未熟である。海外であれば、国外からも観光ツアーの申し込みをすることができるが、日本は、日本に来なければ予約が取れない。日本人を対象としたサービスの充実から始めたい気持ちは分かるが、今はインバウンド対応が経済活性化の鍵となっている。

そのため、他国を見習って各自治体でも計画立案を行っていただきたい。恐らく大手の旅行会社であれば、インバウンド専門の担当者がいるかと思う。そういった方と議論し、ノウハウを取り込んでいただきたい。

これがなぜ重要かというところ、エコネットは自然再生というところからスタートしているが、自然再生を行うにも先立つものが必要となるため、資金を得る仕組みを作ることがエコネットにとって非常に重要な仕事である。

○ 事務局

川越市の事例について、調査できた範囲で報告する。訪日外客数はコロナ禍前の2019年比で8割程度まで回復が進んでおり、そういったなかで川越に訪れる外国人の方が急増していることが注目され、テレビなどで報道されている状況である。

川越のインバウンド急増の要因について、川越市の観光課へ聞き取りを行った結果、はっきりとした理由は不明だが、川越は江戸から続く街並みが残っていることや、東京からのアクセス性が良いこと、観光案内所では多言語対応ができるスタッフがいることなどが一因ではないか、と考えているとのことであった。

また、新聞記事では、埼玉県はインフラ整備が進んでいることや、今の日本は刺激を受ける場というより、「のんびり」や「懐かしさ」を味わう国としての需要があり、その需要にも合っているとのことであった。一方でオーバーツーリズムの問題も残っている状況である。

○ 浅枝座長

東京に近いというのは良いポイントであるため、そのアクセス性の良さを利用すべきである。日本的な風景でいえば、鴻巣市の鴻神社も良いが、荒川河川敷のポピー畑の近くにある、日本人でも名前も知らないお寺である。海外の人にとっては、川越の火の見櫓くらい珍しい。日本人の視点から面白そうなものを探してはいけない。対象

となる海外視点で何が魅力的なのかを探さなくてはならない。皆でアイデアを持ち寄り、それをうまく活かして機能するように取り組むと良いと考える。

○ 鴻巣市

3月9日・10日に多摩動物公園と IPPM-OWS が共催で行う「コウノトリまつり 2024」に出展予定である。その際に推進協議会で作成しているコウノトリペーパークラフトを配布して荒川流域エコネットの PR をしたいと考えている。

また、スタンプラリー企画への意見となるが、5市町をコンパクトに周遊してスタンプを集めるのもひとつの方法として良いと考える。前回のワーキングでも情報提供したマンホールカードの配布について、現在もカード収集のために全国から天空の里へ足を運んでいただいている状況である。先ほど、関東エコネットでカードを配布した事例を紹介いただいたが、可能であれば、関東エコネットや各流域の団体等との広域連携、あるいは、デザインの種類を増やすなどすれば、収集を趣味としているたくさんの方々の周遊を促せるかと思うので検討していただきたい。

○ 事務局

スタンプラリー企画への貴重なご意見も踏まえ、可能な範囲となるが、今後も検討を行い、協議会でも説明していきたい。

2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

(1) 今後の取り組みの進め方について

○ 事務局

【資料2】 アクションプランの取り組み推進についてのうち、次年度の活動計画(案)について説明。

○ 高木委員

生物調査を継続していくことは大切であるが、生きものを増やす取り組みを追加していくと良いのではないか。荒川上流河川事務所が鴻巣市で湿地再生事業を進めていると思うが、推進協議会でも市民参加型で定期的に生きものを増やす環境づくりをしていく取り組みはできないか。

○ 浅枝座長

よいと思うが、荒川にシカが出現し、駆除対象となっていることが懸念事項として考えられる。

日本国内の事例で、多くのイノシシを柵内で飼育しているところを、散歩道から見学できる場所がある。そういった場所があると、観光客が集まる。オーストラリアには、中心部から30~50kmくらい離れた自然豊かな場所で、ワラビーやカンガルー、ウォンバットなどの飼育個体がみられるところがある。こういった場所は外国人だけでなく、日本人にとっても魅力的であり、荒川流域にも生きものを見ることが出来る場

所があると、東京からの観光客を引き付けることができるのではないかと。

○ 高木委員

河川は動物の行き来する道であり、今北海道で問題になっているクマであっても同様である。荒川では三ツ又沼にシカがいるという話もあるが、そういった部分をアピールできると良いのだろうか。

生物調査について、基本的には水生昆虫など水辺の生きものが対象とされているが、その範囲を少し広げて、例えば哺乳類の足跡なども調査できると良いと考えている。また、コウノトリがシンボルとしてあるため、コウノトリの餌となるような生きものが多く生息する環境づくりや、荒川上流河川事務所が管理している場所の一部でもいいので継続して調査を続け、その変遷などを見ることができると、子ども達にとっても面白いと感じてもらえるのではないかと。これはこのメンバーの中でも実施可能ではないかと考える。

○ 浅枝座長

もちろんコウノトリは重要であるが、例えば埼玉ではサギ山が3つも失っている。その理由を専門家に伺うと、サギはコウノトリとは異なり嫌われているからというものであった。ここで問題なのは、嫌われる動物を排除するような流れができると、子どもの情操教育に悪影響を及ぼすのではないかと。

外来種は仕方なく防除の対象となっているが、駆除することに慣れてしまうと、感覚が麻痺してしまう恐れがあるのではないかと。こういった視点もアクションプランに取り入れていかないといけないのではないかと。

○ 浅枝座長

アクションプランに書かれているのは、国内でもよくみられるような定番の取り組み内容である。もちろん定番の取り組みは重要であるが、定番以外の取り組みも行えると良い。

○ 事務局

先ほど高木委員よりお話いただいた通り、鴻巣市の大間地先において、冬期のように水田に水場がなくなるような時期でも、コウノトリの採餌場を確保するため、湿地の創出に取り組んでいるところである。

○ 浅枝座長

ぜひ、推進していただきたいが、エコネットで新しく取り上げるものはもっと違った観点のものにできないか。コウノトリの採餌場確保はどこでもやっており、アクションプランに入れなくても進行していく。定番の取り組みが悪いわけではないが、自由な発想を持ち込んでいただきたい。

○ 荒川流域ネットワーク

生物調査について、私はコウノトリの観察に夢中になり、毎朝毎晩、観察に出かけている状況である。去年は鴻巣市の田んぼにもコウノトリが3羽飛来してくれたが、残念ながら日帰りであったため、再度飛来することがあれば、定着してもらいたいと考えている。

今朝も渡良瀬遊水地までコウノトリの観察に行ってきたが、やはり餌があれば、飛来してくれるのではないかと考えており、荒川周辺の水路にも生きものがすめるような環境をつくることを目標に、みなさんと取り組んでいくことが大事かと思う。

○ 浅枝座長

かつてはウサギやモグラ、イタチなど多くの生きものが身近にいたが、現代は子ども達が生きものに触れ合える機会が少なくなっている。また、場所によっては生きものが駆除されているが、そのことを知らずにいる。生きものを身近に感じる環境教育をアクションプランに取り入れるべきではないか。

○ 荒川上流河川事務所

ご意見について、これまでのエコネットの取り組みを継続して進めていく中で、例えば新たな視点を加えることによって取り組み内容に濃淡をつけていくべきといった主旨として捉えている。

高木委員より、スポット的に生きものが増える過程を調査できる場がないかという趣旨のご意見をいただいた。鴻巣市の大間地区の自然再生エリアについては、現在工事中となることから直ちに実施することはできないが、整備後は市民参加型の生物調査を行えるようにしたい。

また、生きものの駆除などについて、生物多様性の重要性などを普及するため、流域の小学校の校長会などを通じてエコネットの取り組みを知っていただき、環境教育の場を通じて啓発していくことを続けていきたいと考えている。

○ 浅枝座長

本日の資料を見ると、他の地域のエコネットの取り組みとほぼ変わらないが、特別にプラスチックごみの話題などが含まれている。なぜかといえば、何が重要であるか、独自に考えたからである。他にも重要なことがあるため、それを今後のプロジェクトの中で考えていくという位置づけにしたい。

○ 荒川上流河川事務所

新たな取り組みへの重要性を考慮はしつつ、大きな変化を伴うことの難しさもあるため、会議の場などを通じて、地域関係者の皆さんと意見のキャッチボールをしながら取り組みを進めていきたいと考えている。

3. その他（連絡事項等）

（1）今後の予定について

第6回推進協議会の開催について確認した。

（2）その他

○ 荒川上流河川事務所

令和6年度計画についてのご説明において、今まで取り組んできた活動は継続すべきというご意見もいただいたところである。一方で外来種対策やプラスチック問題を取り入れ、荒川らしさを発展させていくべきとのご意見もいただいた。

また、前回ワーキングでのご意見を踏まえ、今回はスタンプラリー企画案をご紹介した。具体の周遊ルートや集客力というのは行政機関の中だけでは分からないところがあるため、先ほど事務局からご説明させていただいたように、各自治体の商工会議所や観光協会などにもご協力をお願いしながら具体化していきたい。そして今までの取り組みに工夫を加えることで、取り組みを広く伝えることができるか、チャレンジと捉えて推進していきたいと考えているため、皆さまのご協力をお願いしたい。

以 上